

小売業で革命、伊藤バロー名誉会長死去

地方創業、自社物流で成功

評伝

卓越したリアリストだった。恵那市という地方での創業ながらも、伊藤喜美氏は限られた選択肢の中から常に最適な判断をしてハンディを克服。バローを小売業として中部地方で2位、世界最大のスーパーマーケットチェーンの名をもじり「日本のウォルマート」と呼ばれるまでに育てあげた。

旧陸軍省が設立したスパイ養成所の陸軍中野学校出身という異色の経歴。リアリストとしての素地は、敵地でスパイ工作を続けるために徹底して自分の頭で考える力を同校で養ったことにあった。

1958年に「主婦の店」として創業したバローが飛躍できた要因は、同業他社が物流を問屋に任せる中、自社で行うことでコストダウンを図り、差別化したからだった。ただその決断は、地方にある恵那市では問屋が商品を運んでくれなかったから始まったこと。伊藤氏には大きな壁を利

点に変わるバイタリティーがあった。社員に対しての厳しさは、自他ともに認めるところ。ただ「厳しいことを言うが、社員がバローを辞める時にバローにいて良かったと思われたい会社にするという気持ちだった」

と明かしたように、根底には社員への強い愛情があった。その気持ちがあったからこそ、社員は伊藤氏とともに戦う一流の流通戦士へと育っていった。

社員だけでなく、地元への愛情も人一倍強かった。税金を払って恵那市に貢献するたに堪えませんか」と悼んだ。

「大きな宝失った」

県財界から惜しむ声

7日、93歳で亡くなったバロー創業者で相談役名誉会長の伊藤喜美氏。終戦後、地元恵那市に戻って実家の食料品店を継ぎ、現在小売業で中部2位のバローグループに育て上げた。一方、ふるさと・恵那市へ深い愛着を抱き、恵那商工会議所会頭をはじめ地元各種団体の要職を歴任するなど、地域の発展に心血を注いだ。県を代表する経済人の訃報に、財界から惜しむ声が相次いだ。

県商工会議所連合会の村瀬幸雄会長は「先見性と経営手腕は、郷土の経済人として尊敬に絶えないところで、伊藤さんの生涯は」

「多治見市に移したものの本社所在地は恵那市から決して移さなかった。恵那市には図書館も寄贈した。1年ほど前にお会いした際、

「寄贈した図書館は、蔵書数がまだ岐阜県で一番ではない。一番にしたい」と、穏やかな口調ながらも熱く語っていた姿が印象深い。

地元を愛し、戦後を戦い抜いた希代の人物を失った。

（鈴木隆宏）



岐阜新聞のインタビューに応じ、経営哲学を語る伊藤喜美氏＝2013年2月、東京都内

「多治見市に移したものの本社所在地は恵那市から決して移さなかった。恵那市には図書館も寄贈した。1年ほど前にお会いした際、

「寄贈した図書館は、蔵書数がまだ岐阜県で一番ではない。一番にしたい」と、穏やかな口調ながらも熱く語っていた姿が印象深い。